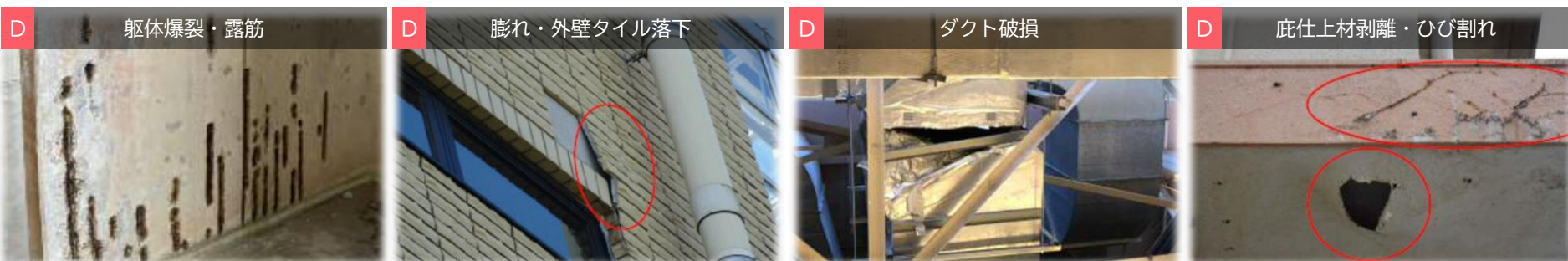


○ 背景：維持管理の実態

- ❖ 公共施設保全計画策定時に実施した劣化状況調査の結果からは、必要な修繕等が実施されず、数多くの施設の不備が残されてきた実態が明らかとなっています。

▼ 劣化状況調査結果



○ 背景：組織としての課題

- ❖ 従来の縦割り型の管理体制の中で、優先度に応じた修繕予算の配分ができていないことや、個別発注による管理水準のばらつき、老朽化に伴う事務負担の増大、担当職員の技術的ノウハウの不足等の課題が浮き彫りとなっています。

- ☑ 人口減少社会を迎える中、限られた財源やマンパワーで市民ニーズの多様化に応えつつ、市民の生命や財産を傷つけてしまうような重大事故の発生を未然に防ぐためには、施設の不備を解消していくための新たな仕組みづくりが必要です。

「安全性の確保」や「横串型メンテナンスサイクルの確立」が必要

▼ 包括管理業務委託の実施に関する調査・研究・検討の結果

1 公共施設の維持管理に係る現状と課題

課題① 積み残し修繕の増大

課題② 縦割りによる弊害

- 大幅な財源不足によって積み残し修繕が増大し続ける状況
- 技術的ノウハウの不足や組織横断的な優先順位付けが課題
- 老朽化に伴う事務負担の増大や管理水準のばらつきが発生

2 包括管理業務委託の実施により期待される効果

効果① 管理水準の向上

効果② 横串による全体最適

- ☑ 民間ノウハウの活用による管理水準の向上（安全性の確保）
- ☑ 劣化状況等の一元把握や技術的・統一的な視点で対応が可能
- ☑ 業務の効率化（事務負担の軽減）や管理水準の均一化

「施設の不備を解消していくための仕組み」として有効

▼ 包括管理業務委託の実施目的に関する整理

◆ 包括管理業務委託の実施目的

① 公共施設更新問題に直面する中での「安全性の確保」

② 全体最適に向けた「横串型メンテナンスサイクルの確立」